

## 観光圏における観光客の広域周遊行動に関する研究

○名城大学大学院 学生会員 佐藤 翔太  
 名城大学 非会員 山岡優加理  
 名城大学 正会員 鈴木 温

## 1. 本研究の背景と目的

近年、観光立国実現のため、観光庁の支援により全国で観光圏の整備が進められている。高い魅力を持つ観光圏を形成していくことで、圏域内全体の活性化が期待されている。一方、国内宿泊旅行回数の減少<sup>1)</sup>や訪日外国人旅行者数の伸び悩み<sup>2)</sup>といった問題も存在している。観光圏を十分に活用し、圏域の活性化を図るにはその地を訪れる観光客の行動を把握した上で施策が必要となってくる。そこで、本研究では観光圏における観光客の観光行動を把握し、広域周遊や宿泊を促す方策を検討することを目的とする。

## 2. 調査対象地域

本研究では知多半島観光圏を調査対象地域として選択した。南知多町役場でのヒアリングの結果、予算や二次交通といった観光圏の課題が明らかになった。また、図-1<sup>3)</sup>に知多半島の観光入込客数の推移を示す。平成17年に中部国際空港が開港し、年間観光入込客数が1000万人以上増加したことが分かる。しかし近年、空港見学者を除いた入込客数は空港の開港前と比べ、横ばいから減少傾向にあり、入込客数は伸び悩んでいる。以上のことから、空港による集客が周辺地域の観光客増加につなげていくことが課題となっている。

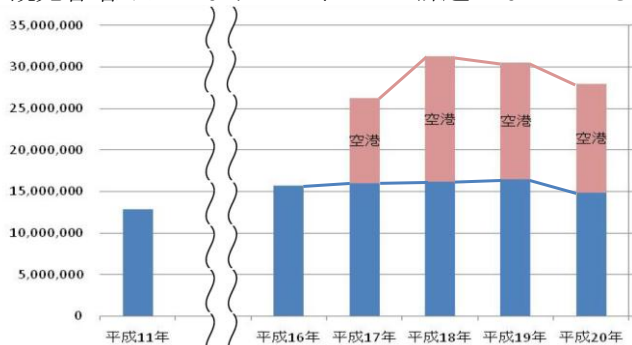


図-1 知多半島の観光入込客数推移

キーワード：観光圏、広域周遊行動、地域活性化

連絡先：名城大学 天白キャンパス

(〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口1丁目501番地)

TEL052-832-1151)

## 3. 研究方法

本研究では観光客の観光行動の実態を明らかにするため観光行動調査を実施した。2010年11月に知多半島の4か所の観光地にて、209組の観光客に対して観光行動調査を行った。この結果から観光客の行動把握を試みる。調査場所と各場所でのサンプル数、男女比、平均旅行人数を図-1に、質問項目を表-1に示す。

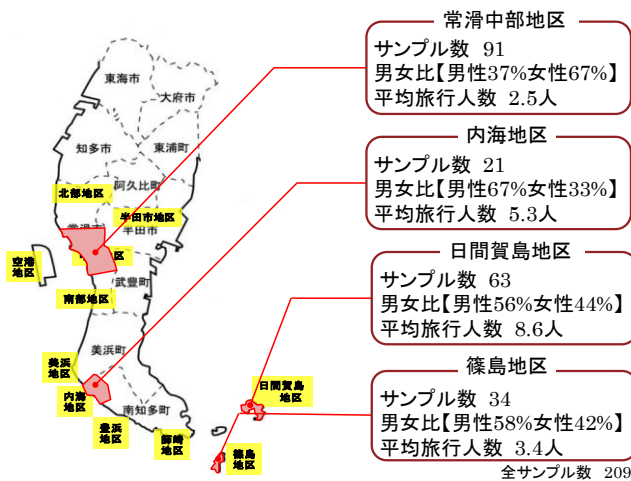


図-2 調査場所

表-1 調査項目と調査対象の概要

## 旅行プランに関する質問

旅行形態、旅行人数、旅行目的、旅行先決定理由、滞在期間、プラン作成法、情報、予算、宿泊施設、観光ルート、交通手段、訪問場所決定理由

## 個人属性に関する質問

性別、年齢、居住地

## 4. 調査結果

表-2は調査場所別に、観光行動調査被対象者の居住地域、観光圏へのリピーターの割合、自動車移動である割合を示している。居住地域ではどの調査場所においても愛知県内からの観光客が多く、また、リピーターの割合も高いことから、近郊から何度も訪れている観光客が多いことが分かった。移動に関しては、いずれの調査場所でも自家用車の利用が多かった。

次に、図-2に常滑中部地区における、図-3に南知多

(内海，日間賀島，篠島の3地区)における旅行中の訪問地域数が2地域以上である観光客の訪問地域の移動を線で示す。常滑中部地区はセントレア，名古屋とのアクセスが良く，その間を移動している観光客が多く見られた。しかし南知多方面へ移動する観光客の割合は少ない。一方，南知多では南知多内での移動が多く，観光圏北部と南部間の周遊促進が課題である。

表-3 には旅行期間、訪問地域数における常滑中部地区と南知多との比較を示す。常滑中部地域では、歴史的建造物の見学や焼き物体験を目的とした日帰り客の割合が高く、複数地域訪問している観光客の割合も南知多より高かった。一方、南知多では旅館での海の幸を活かした食事を目的にした宿泊客の割合が高かった。しかし、複数地域を訪問している観光客の割合は低く、宿泊客に対して十分に周遊を促せていなかった。また、離島である日間賀島、篠島における観光客の83%が、島へ渡る際に半島先端の師崎港を使用しており、65%が島以外の地域に訪問しないピストン型旅行であった。

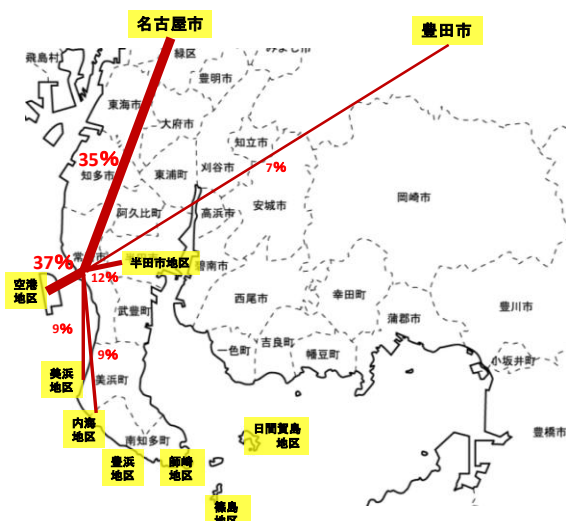


図-3 常滑中部地区における観光客の周遊



図-4 南知多における観光客の周遊

表-2 居住地，リピーター，移動の調査場所別比較

|          |           | 常滑中部地区 | 内海地区 | 日間賀島地区 | 篠島地区 |
|----------|-----------|--------|------|--------|------|
| 居住地域     | 愛知県内      | 66%    | 81%  | 73%    | 66%  |
|          | 愛知県以外の東海圏 | 15%    | 14%  | 19%    | 22%  |
|          | 東海圏以外     | 19%    | 5%   | 8%     | 12%  |
|          | リバーターの割合  | 57%    | 95%  | 60%    | 68%  |
| 自動車移動の割合 |           | 67%    | 100% | 60%    | 88%  |

表-3 常滑中部地区と南知多の比較

|       |        | 常滑中部地区 | 南知多 |
|-------|--------|--------|-----|
| 旅行期間  | 日帰り    | 73%    | 55% |
|       | 1泊2日   | 19%    | 43% |
|       | 2泊3日   | 4%     | 2%  |
|       | 3泊4日以上 | 4%     | 0%  |
| 訪問地域数 | 2地域以上  | 48%    | 38% |
|       | 1地域のみ  | 42%    | 54% |
|       | 未定     | 10%    | 8%  |

## 5. 観光圏としての提案と課題

これまでの調査結果から、空港地区や名古屋とのつながりは強いが日帰りが多い常滑中部地域と、宿泊客は比較的多いが周遊範囲が狭い南知多地域とのつながりの強化が必要であると考えられる。現在知多半島は、鉄道網が発達しておらず、常滑から南へ向かう路線や半島先端までの路線は存在しない。バスについても名古屋や空港地区から半島先端まで直通路線は存在しない。島へ渡る観光客の師崎港の利用率が高いにもかかわらず、師崎港までの公共交通の不便さが目立つ。鉄道網の拡張や半島先端へのバス路線増設による公共交通利用者の移動自由度向上が周遊促進に有効であると考えられる。また、師崎港から他観光地へのアクセスを強化することで島へ渡る観光客にも周遊を促すことができると考える。並行して南知多での宿泊の魅力を食中心にさらに向上していき、南知多を滞在拠点とした連泊や観光圏全体への周遊促進も見込めると考える。

## 6. おわりに

本研究では、観光圏に着目し、観光行動調査から観光客に広域周遊や宿泊を促す方策の検討を行った。結果、知多半島観光圏では南北のつながり強化が必要であるという結果に至った。今後は2010年11月に岐阜県高山市で実施した観光行動調査結果をもとに、市町村合併を行った地域の観光と観光圏との比較を行う。そこから、連携形態の違いから生じる施策の問題点や観光客の周遊行動の違いに関して考察を行う。

〔参考文献〕

- 1) 国土交通省 平成 21 年度版観光白書
- 2) 国土交通省観光庁 訪日外国人旅行者推移
- 3) 国土交通省観光庁 知多半島観光圏整備計画に掲載されている図を編集